

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
診療放射線学実習直前演習	1	3	小川 清	診療放射線技師	本科目は、実習病院で行う「臨床実習」を履修するにあたり、実習の目的、意義を明確にし、臨床に必要な最低限の知識・技能及び医療人・社会人としての常識を確認することを目的とする。様々な医療行為・医療業務が理解できる能力を培い、自己学習を促進するための学習姿勢を涵養する。具体的には、社会人としての礼儀作法から自職種、他職種の業務内容を理解し、医療専門職としてのコミュニケーション、患者に対する接遇について学ぶ。
診療放射線学総合臨床実習	2	4	小川 清	診療放射線技師	これまで臨床実習で学んできた診療放射線学及び臨床実習の総まとめとして診療放射線技師に必要な臨床実践能力を学ぶ。専門科目で学んだ知識を臨床現場において、主体的に実践することの意義とその方法について学ぶ。また、チーム医療や医療安全など、医療職に求められる臨床能力や、調整等の重要性を学ぶ。具体的には、実習期間中に学んだ諸知識の中から問題点を取り上げ、その問題点を解決する方法について検討し、グループディスカッションを通して、協働の意義を理解する。
診療画像解析学演習	1	3	加藤 英樹	診療放射線技師	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に、診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、画像技術を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
診療画像解析学実習Ⅰ	1	3	土屋 仁	診療放射線技師	「診療画像解析学Ⅰ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。X線撮影装置は、画像診断機器として最も歴史が長く広く普及している。学内実習室にてX線を発生させ、最適な画像を得るための手法、ポジショニング、画質評価、受診者[患者]への接遇とコミュニケーションを学ぶ。また、X線施設環境の整備、放射線防護の実際、ファントムを用いた撮影実習を通して、臨床実践に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。具体的には、頭部撮影、胸部撮影、腹部撮影、脊椎撮影、四肢撮影など臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。
診療画像解析学実習Ⅱ	1	3	加藤 英樹	診療放射線技師	「診療画像解析学Ⅱ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。「診療画像解析学Ⅱ」で学んだ画像検査の成り立ち、特徴について臨床実践に即した学内実習を通して学ぶ。正常画像と症例を含む臨床画像を提示し、正常画像における解剖学の理解を深める。具体的には、消化管造影検査、X線CT検査、造影X線検査、US検査、超音波検査等の撮影実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。
診療画像解析学実習Ⅲ	1	3	菅 和雄	診療放射線技師	「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ知識を学内実習にて主体的、実践的に学ぶ。「診療画像解析学Ⅲ」で学んだ画像診断機器について画像処理、診断読影を行う。具体的には、アンギオ装置とその画像、乳房検査装置と画像、診断読影、骨密度検査装置による画像、検査、読影、歯（オルソパン装置）、眼底検査の画像の読み方、読影等、実習を通して、臨床実践実態に即した診療放射線技師の行動について学ぶ。
診療画像解析学臨床実習Ⅰ	2	4	小川 清	診療放射線技師	診療画像解析学の諸科目で習得した知識・技術を基に医療施設において診療画像解析学の実践を体験することにより、診療画像解析学に必要な知識及び技術、患者接遇を統合し、診療画像領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識を学び、実践に則した診療画像解析学について学習する。さらに、診療画像解析を取り巻く環境や他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。
診療画像解析学臨床実習Ⅱ	2	4	小川 清	診療放射線技師	これまで学内で学んできた診療画像解析学の諸科目を基礎として、血管造影、X線CT、MRI、超音波検査、眼底検査に関する各機器の取扱い方や撮影技術、画像評価、データ処理について学ぶ。また、これらの検査は技師と患者との対応だけではないため、医師、看護師、コ・メディカルの連携を知る機会であることを自覚する。
核医学検査技術学演習	1	3	渡邊 浩	診療放射線技師	「核医学検査技術学Ⅰ・Ⅱ」及び「核医学機器工学」等で学んだことを基に総合的に演習を行い、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、SPECT検査の定量性向上を目的とした収集法・画像再構成法・解析法やコンパートメントモデル解析、デコンボリューション解析の概念を学習し、シミュレーション等の演習を行う。
核医学検査技術学実習	1	3	渡邊 浩	診療放射線技師	核医学検査技術学の諸科目で得られた基礎知識により、装置の保守管理・性能試験の実習を通して学習する。性能試験方法は関連する協会・学会・委員会が種々の方法を提案し、規格勧告として公表している。具体的には、画像の処理技術、ガンマカメラについては計数特性、直線性、均一性、分解能、SPECT（コリメータ）については空間分解能、感度不均一性、データ収集法による画質の変化、データ処理法による画質の変化等について学習する。
核医学検査技術学臨床実習	2	4	渡邊 浩	診療放射線技師	これまで学内で学んできた核医学検査技術学の諸科目などを基礎として、臨床現場における放射性医薬品の取扱い法、診療画像機器の操作・取扱い法、データ処理、RI廃棄物の取扱い手法について学ぶ。また、検査を展開しながら対象を取り巻く内・外的環境に関しての様々な知識及び態度を学び、実践に則した核医学検査技術学について学習する。また、他職種との連携の重要性も実践を通して理解する。

実務経験のある教員による授業科目一覧【放射線学科】

2019年度

授業科目	単位数	履修学年	担当教員	実務経験	授業内容
放射線治療技術学演習	1	3	岩井 譜憲	診療放射線技師	「放射線治療技術学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基に総合的に演習し、診療放射線技師としての基本的知識のまとめと問題解決能力を養う。具体的には、外部放射線治療の計算、小線源の線量計算を中心に、部位別放射線治療方法について実践形式で学ぶ。
放射線治療技術学実習	1	3	倉石 政彦	診療放射線技師	放射線治療に必要な基礎技術の習得を目標とし、標準測定法によるビームデータの収集技術、及び線量計算アルゴリズムを理解する。具体的には高エネルギーX線及び電子線を用いた治療計画の作成、小線源治療の線量計算について学ぶ。照射補助器具の作成、使用方法、矩形照射野の計算手法を習得する。また、モンテカルロシミュレーションの理解、治療計画のQA、QC、患者接遇等について学ぶ。
放射線治療技術学臨床実習	2	4	倉石 政彦	診療放射線技師	これまで学内で学んできた放射線治療技術の諸科目などを基礎として放射線治療装置の操作、取扱い方法、治療計画の策定、実施、線量測定照射方法について、臨床現場において学ぶ。医療施設において放射線治療の実践を体験することにより、放射線治療の進め方、必要とされる知識及び技術、態度を統合し、放射線治療領域における診療放射線技師の役割を理解する。また、放射線治療を受ける対象である患者や家族との医療コミュニケーションを通してペイシエント・ケアの実践力を高めるとともに、他の医療専門職との連携について理解する。
医療画像情報学演習	1	3	星野 修平	診療放射線技師	「医療画像情報学Ⅰ・Ⅱ」で得られた知識を基に、画像処理法を演習を通して理解する。スムージング関数、周波数処理、再構成フィルター等のコンピュータ画像処理法について学習する。また、画像処理方法と臨床画像の関係について理解する。
合計単位数	20				